# 想創奏（そうそうそう）

No.56

## 藤原静江さんとビンを偲んで

令和５年７月 発行人 / 荒川 輝男　編集人 / 出口 祐也
社会福祉法人そうそうの杜
〒536-0013 大阪市城東区鴫野東 3-2-26
Tel 06-6965-7171 / Fax 06-6167-2622 / HP http://www.sou-sou.com/

そうそうの杜

# 想創奏（そうそうそう）

## No.56 Contents


■普通の生き方の中で

荒川 輝男 …3

■特集・藤原静江さんを偲んで

…4

■しぎのぼっチャ&モルック大会

ぼっチャの部　川内田 和昭 …11

モルックの部　大竹 寛輝 …12

フリーマーケットを終えて　駒澤 美羽 …13

■広報誌ポスティングについて

板見 善子 …14

■城東幼稚園 武田園長インタビュー

城東幼稚園 武田園長 …15

■エッセイ

チャップリン館　關 宏之 …16

自分みがき　和田 数子 …19

■「そうそうの杜ビン」のこと

…20

■大流しそうめんのお知らせ

…22

■寄付にご協力いただきありがとうございます

…23

# 普通の生き方の中で

理事長　荒川　輝男

今年も梅雨が明け、厳しい夏の季節が我々に訪れる。多くの憂鬱な話題が日々世間を騒がせる中、一筋の明るい光を放つ存在が、大リーグで活躍を続ける大谷翔平選手である。

かつてはイチロー選手のように、ストイックな姿勢で野球に取り組む姿が讃えられていた。その中で、大谷選手の存在は、今までとは少し違うヒーロー像を我々に見せてくれている気がする。これまでの選手と比べて根本的な部分は変わらないかもしれないが、普通の若者が気負いもなく、ごく普通の生き方の延長線上で最大限の努力をするという、新しいヒーロー像が大谷選手の中にあるような気がする。そんな若者が世界を驚かすような活躍を見せる姿は、我々に希望を与えてくれる。夜の NHKBS 放送による大リーグ速報と、週末午前の大リーグ中継が最大の楽しみになってきている今日このごろである。

しかしながら、大谷選手の明るさとは対照的に、国内外の話題は暗いものばかりである。人の命がいとも簡単に奪われていく現状を見て悲しくなるとともに、人間の歴史の側面では常に命の奪い合いがあり、大衆の命が奪われる中でも、正義は権力者の側にあるということを、昨今の世界情勢から痛感させられる。

また、ウクライナとロシアの戦争において、少なくとも時の権力者であるプーチンは、一般大衆の命が奪われていくことにあまりにも鈍感であるように思えてならない。国際経済への影響も極めて深刻であり、食料や燃料といった基本的な生活資源の供給にまで影響を及ぼし、世界中の人々が苦しめられている現状がある。戦争においては、常に両国間の歴史を踏まえて正しい判断をする必要があるが、命の尊さは何よりも優先されるべきものであるということを忘れてはならない。

中東戦争において、初めてハイテク技術の兵器が使われ、まるでゲーム感覚で戦争を見ることに違和感をおぼえた。命を奪う行為があたかもバーチャルな世界の出来事であるかのように、人間の感情から切り離されてしまっているような気がする。戦争の加害者が肉体的な痛みを感じないことが、近年の戦争における問題を更に深刻化させているのではないかと思えてならない。

社会のひずみに直面しながら、我々は何をすべきなのだろうか。無力感に打ちひしがれてばかりいても解決にはならない。冒頭で大谷選手の話題に上げたが、普通の生き方の中で最大限の努力をし続けることは、我々が社会に対して描きうる小さくとも大きな一歩なのではないかと感じるところである。

# 藤原静江さんを偲んで

理事長　荒川 輝男

今回は、故藤原静江さんの特集としました。

藤原さんは、社会福祉法人日本ライトハウスで視覚障害者への訓練（リハビリテーション）を長年続けてこられ、余生を天理市で送るために 30 年ほど前に引っ越しされました。

日本ライトハウスを退職後、天理市にある有料老人ホームにて生活をされていました。その後も、とにかく動ける間は、足しげく大阪まで通い関わりのあった視覚障害者や日本ライトハウスの情報文化センターのボランティアなど一生涯を視覚障害のある人たちのために捧げた人生だったと思います。

ライトハウスを卒業した人たちに対しては、全国に散らばっている修了生に対しても、視覚障害故の困りごとがあれば、日本全国どこまでも駆けつけて支援し続けていた方でした。

しかし、残念ながら今年の 1 月 4 日に老衰のために 92 年の人生を終えられました。

個人的には、藤原さんは福祉の仕事に携わっているというより彼女の生きざまの延長がたまたま視覚障害者との出会いだったと思います。ご本人は福祉のことを意識しているのではなく、藤原さんの生きざまがまさに福祉の思想を体現している。このような実践を通して視覚障害者に対する想いを学ばせていただいた方です。

このような過程の中でご主人が突然亡くなられて、私に任意後見人として関わって欲しいとの依頼を受けて深く関わることで恩返しができたかなと思っていました。

また、法人とのかかわりは、私個人のつながりから、動ける間は奈良から Kawasemi に足しげく通ってもらったこと。

最終的に、遺言書を作成されその財産をすべて社会福祉法人そうそうの杜に全額寄付という内容でした。法人への遺贈ということで 49,863,477 円の寄付をいただきました

ご本人の寄付の使途については特に指定がなかったので、遺贈を受けたお金に関しては、多くは基金として、今後の法人運営や外国人労働者の雇用や本国での混乱した政治状況下での日本留学のための奨学金や被災者支援などに生かしていきます。

また、今回は藤原さんの支援や指導を受けた方々が、ご本人を偲ぶために神戸の新阜義弘さんを中心に文章をいただいたので機関誌に掲載することにいたしました。

## 「藤原 静江先生を偲んで」

神戸アイライト協会会長　新阜 義弘

### 1.はじめに

人生の途中で心身の障害を持って生きていかねばならない事態になったとき、そのショックの大きさはとても計り知れないものがあります。特に、視覚障害は、その程度にかかわらず生活に大きなダメージを受けることが予想されます。

そんな時に、家族や友人知人は力になってもらえても、医療や福祉の専門家やそれ以外の人たちはどう「寄り添うこと」ができるでしょうか。

その中で、私たち視覚障害者に「寄り添うこと」を実践し続けた人がいました。その人こそ日本ライトハウスの生活訓練指導員だった藤原静江先生でした。

打ちひしがれていた時間を超えて、自分の人生を生きていこうという兆しが出る時、また、「これではいけない」と少しの積極性、前向きな考え方になった時に優しくて厳しい見守り声掛けを続けられた藤原先生が私たちの傍におられたのです。

あの有名なヘレン・ケラーのサリバン先生のように、日本ライトハウスの生活訓練指導員を長く勤められ、令和 5 年（2023 年）1 月4日に逝去された藤原 静江（享年 91 才）先生が本当の私たちのサリバン先生であったと言えるのです。ここに感謝の気持ちも込めて、その人柄と少しのエピソードを紹介します。

### 2.「藤原先生のプロフィール」

昭和 6 年（1931年）5 月 28 日生まれ

大阪府豊中市出身、大阪師範学校（大阪教育大学）卒業（女性では同学年でただ一人）その後、主婦業から大阪市鶴見区にある日本ライトハウス職業生活訓練センター（現在の視覚障害者リハビリテーションセンター）に勤務、盲人情報文化センターでボランティアを含めて半世紀以上を視覚障害の世界に関わってこられた。

### 3.藤原静江先生からお聞きしたこと

**エピソード① 「幼い時の話」**

私の家族は、父は、職業軍人、母がいて、7 人兄弟の 4 番目だった。第 2 次世界大戦前は母子家庭であるが故に進学や就職が差別されていたことにも疑問や憤りを感じていた。

小さいころから先生と言われる仕事にはつきたくなかった。だけど家がしんどかったので、奨学金をもらえるからということで、大阪教育大学に進学しました。そんなこともあって、大阪教育大卒業後は、教員にはならず奈良の資産家の家庭教師となったのです。趣味といえるのは、家の裏側にテニスコートが 2 面あったので、そこからポーンボーンとテニスボールの音が聞こえていることに気づきました。テニスというものに興味がわきまして上の学校に行きましてからテニスを習いました。通常は壁打ちのように単純な練習からだったのですけれど私は背の高い男性に教えてもらいました。あまりうまくはならなかったのです。

幼い時に飛行場が遊び場だったのね。私は、豊中にいたので現在の大阪空港の傍で育ちました。学校も飛行場の近くで戦争中はハイキングや遠足は飛行場の見学や関係の物が多かったですね。機銃掃射で多くの友達が犠牲となったこともありました。私は13日の金曜日と聞くと安眠できるのですよという。それはアメリカ軍が休みとなるのであろうという憶測からのものでしたがね。家は、禅宗でしたが、教会に行っていたからね。

また、ライトハウスに就職してから訓練生を伊丹の飛行場まで送っていき、飛び立つまで見送ってからライトハウスに戻ると「どこまで行っていたのですか？」と当時の所長に尋ねられ、「九州行の飛行機に乗せて飛び立つまで見送って帰ってきました。」というと、「さっき無事についたと電話があったんですよ。」と聞かされて飛行機の速さや、家の近くにある飛行場からの距離を感じて、通勤の距離を感じたことを思い出しますと言われた。

### エピソード②「ライトハウスでのこと」

日本ライトハウスとは、昭和 30 年代にかかわり始めましたね。2 代目理事長の故岩橋英行さんの手伝い（中途失明者の訓練施設を建設するため）の奉仕活動をしていました。そのうちに面白くなってきたので、職員となったのです。

私は岩橋英行理事長からいろんなことを教えてもらい、また学ばせてもらったのです。ライトハウスの職員になって見えない人たちから「学ぶこと」ができることが喜びでもあり、驚きでもあったのですよ。特に中途視覚障害の方々からいろいろなことを勉強させてもらったと思っています。それは理事長を見ていてその思いや動きから生活訓練を受けている人たちに役立つことが多かったのです。

理事長は、中途失明されましたが、その人柄も考え方にも感心させられたり、仕事に参考になることがたくさんあったのです。私の恩師であり、上司であり、教科書ですね。

今振り返ってみると、自分が職員をしていたころはとてもおもしろかったし、運が良かったと思う。時代がよかった。もし今だったらストレスなどで続いていないように強く思えるんですよ。

それを強く感じるのは、私の働き方がとても自己中心的だったというか、周囲の人たち（一番は家族、特に夫かな）が協力的で、やむなく理解してくれていたからかもしれないんですよ。それは、上司や職場の仲間たちや訓練生たちみんなが、もちろん家族も協力してくれたからだと確信できるのです。それと私たちが生きた・働けた時代がよかった。もし現代ならすぐにやめさせられたかもしれないとつくづく思いますよ。

それと私は、毎週木曜日は午後 5 時に退勤させてもらい心理学の勉強会に大阪の YMCA に行かせてもらっていた。講師は京都大学の河合隼雄さん。（ユングなどで有名、文化庁長官。同時期には自殺研究で有名な石井博士や各学校や施設病院のケースワーカーや勉学熱心な人たちが集っていた。どんなことがあっても行くことにしていた。）これが私のストレス解消法であったと言えるわね。人間の心理、心の動きや考えは、視覚障がいの人や人物を見るうえではたいせつな学問だと思っている。

### エピソード③「仕事のこと」

私は、仕事熱心と思われるのかもしれないけれどそれは違う。私のペースで、動き回っていたし、とにかく毎日が戦争みたいだった。

働きだしてからは、とにかく通勤時につかれて寝過ごしてしまうことがあった。阪急電車で梅田から豊中まで乗るのに宝塚まで乗り過ごして折り返しで梅田まで行って戻ることも多かった。電車では必ず座らず立っているのだけれど、立ったまま寝てしまい最悪は池田車庫止まりになってしまい、池田で始発を待って帰ったという。（お金がなくてタクシーも使えなかったらしい。）いまでも奈良から大阪に出てくるときは、乗り越すといけないから、座らないようにしているという。

足が悪くなって住友病院で手術しなければならないようになって翌日までの入院で仕事を休みますとライトハウスに連絡していたのですが、手術後に包帯で足をぐるぐる巻きにされて「家に帰ってよいですよ。」と言われて仕事場に直行しました。それは、仕事熱心ではなく今なら無謀だと怒られるところだわね。

それと、家族の協力、主人と姑がとても協力してくれたからできたことも多いのね。自分の家には新しい電化製品も少なかったが、馴染みの電気屋さんは＊新製品が出るとすぐに購入してライトハウスに持ってきた。（洗濯機やその他）そうした新製品を見ていると自分の家がライトハウスに移ったように思えたのね。

私が常に心掛けていたことは、生活訓練は、個別的な訓練だから一人一人の個性や受け止め方が違うことを肝に銘じて、教える側にもそれぞれの教え方があるから大きな方針はあったけれど、これというやり方や方法では決められないことが多かった。

また、私が体験したことや経験、仕事のやり方や利用者に話したことなどを書き留めておいてほしいとよく言われたが、私は絶対にそうしなかった。それは、みんな方法や利用者の状況も個別性があって違うのね。それを知らなくてはならないのね。見えな

いことを見える者が話をしてもわからないというのもわかるわね。どんなにしてもわからないのね。私は、感じていたポイントはどなたにも紹介していましたよ。

※「参考資料」毎日新聞点字毎日の昭和 50 年代の生活カレンダーでは、視覚障害者が、家庭料理基礎や食品・食器などを清潔に扱うこと、台所作業では、指先の使い方の工夫や手全体を汚さない方法を具体的な場面を挙げて説明している。

私は、訓練生を毎日見ていても同じように洗濯物も間違えたり、入れ替わったりする原因がわからなかった。盲学校の寮母さんたちは、まとめて洗濯をしているからそうした間違いもあるみたいね。ライトハウスに沖縄の盲学校出身者がその当時、5名いて、そうしたことがよく起きていたのね。それぞれが自宅に戻って生活することがよく理解されていなかったからなのね。小銭でも引き出しでもごちゃごちゃになっている人には、粘り強く言いたいけれど、言ってもだめだったらもう言わないけれど、ときどきは見て見守ることを続けるしかないわね。

それと姿勢とにおいや周囲のことがわかる力が大切になる。茶道や華道をしていると感じることがある。歩く姿勢や食事の際の姿勢、水やお茶の大切さがわかるのね。

現職時に、足が動かず階段ままならなくなった。医者に行くと「アリナミンの栄養注射と水を一定量飲むように言われた。だからそれからは水を常備して持ち歩くようにしている。お茶は常に味がわかるようにしておくことがたいせつで、まず匂いが大事で味わいが違うことを意識すること。特にライトハウスの初期の訓練生は厳しく静岡出身の人から「お茶をのみたいから」と言われて食堂のお茶を出すと「これはお茶ではない。」と静岡茶を出してきた。宇治茶は知っていたが、土が違うので味やにおいが違うことがわかる。

今は、何よりも湯冷ましがよい。白湯といわれる湯冷ましがいいのよ。これは私の原点なの。

**エピソード④**

「退職後は奈良に住んで 30 年になるけれど有料老人ホームには第1号で入りました。二つ部屋を使ってもらってもいいですよと言っていたけどあんまりわかっていなかったみたい。

私が 10 日ぐらいの入院中で、その間に届いた荷物を全部受け取らずに送り返したこともあったし、主人が結核だったから入所するまでに検査検査でいやになるくらい放射線を浴びました。みんな天理市の奈良東病院に隣接した介護付き有料老人ホームというとお金持ちだというけれどそんなことはない。私の相手が梅花学園の学長だったから退職金も多かっただろうというけれどそんなことはない。家も土地も売り払ってきたけれどあまりよくないし、帰るところもないからいるのよ。今は、家を持って入ってくる人ばかりなのよ。

私も相手もお金がなくて貧乏でした。だけど姑が学校を退職後に梅花の先生となり、お金があったからやっていけたのね。相手は夜学の教員、私はライトハウスのボランティアというようにお金がなかったからよく働きました。私も身体がわるく今も脇腹あたりの痛みがとれず寝込むこともあります。

だけど元気を出して奈良から大阪に来てそうそうの杜の Kawasemi（かわせみ）に食事をしに来ていましたよ。そこに行かねばならないと思うから動けているのです。気持ちがたいせつです。強い思いですね。

昔（小学校1年生）からお小遣いを毎日つけることを先生にいわれました。（交通費やおやつ文具代など）それが当たり前に思っていました。

私の性格は、とても自己中なんです。それはどういうことかというとわがままではないということです。周囲に私を理解してもらって家庭や仕事をひたすら自分のやり方でおこなってきました。それがわがままといわれれば困りますが、わがままでなく自分のやり方を通す自己中心的な人間だと思ってもらいたいのです。

仕事への信念とかじゃなくただ自己中ですねという理解でいいのですから。

仕事への信念というそんな大げさなことではないけれど、現代の世の中、時代が変わって私が仕事をしていた時代は自己中を許してくれていたいい時代だったと思います。

今なら何かあると規則ができて（ルール）を守れと言われたでしょうけれど、私は仕事が好きで、自由にできたことに感謝しかない。今も昔も、組織にいれば仕方がないのかもしれませんが、私のような自己中の人ははじかれていましたでしょう。私はそう思います。このような人間になったのは小学生の時の校長先生が挨拶や草刈りやトイレ掃除もしっかりやっていたことを私たちに見せてくれていたからですね。教育ということはたいせつなことだと思います。改めて感謝しています。

そうしたことを振り返ればなおさらなんだけれど、自分の生き方は、自分が決められたら納得できるけれど、それは難しい人も多いわね。私にはこれでよかったと感じることができたと思えるけれど。未だにわからないこともたくさんある。私がやってきた生活訓練はみえなくなってからのリハビリテーションですが、単純だけれど厳しくて、それはその人のためにと思ってだけど今はこれでいいのかなと自問することもありますね。

**エピソード⑤「新阜とのかかわりの中で」**

盲老人ホームへの視覚障がい者への理解と支援のためにというテーマで、職員研修に4回来ていただく。食事の姿や歩き方や居室の整理などに関心、職員のための「視覚障がい者への見守り・声かけ」と生活の中での配慮事項と手助け」「精神的なサポートの基本」などをまなびました。特にアイマスクでの食事やお茶、茶華道などは勉強になりましたという感想の職員が多くいた。

また、奈良への千山荘の日帰り旅行での現地でのボランティアもしていただいた。同行と案内。3回。奈良県庁や奈良公園、大仏殿や春日大社、鹿との戯れや奈良ホテルなど。奈良でのボランティアたちとの交流も面白かったですね。

## おわりに

最近、よく耳にするフレーズで、だれ一人取り残さないという言い方をよく聞きます。藤原先生は、自らがかかわられた中途失明した私たち誰一人取り残さないための努力をされました。まさに「浪速の、日本のサリバン先生」であられたことを私たち全員は、確信します。いつも陰になりながら寄り添い、見守り続けていただいたことに深く敬意と感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。ご冥福をお祈りします。

**ライトハウス**
**元訓練生からの藤原先生の思い出**

匿名　66 才　女性

日本ライトハウスで、訓練を受けることに決まった時には、たいへん厳しいところだという噂を聞いておりましたので、不安でいっぱいだったことを思い出します。

中でも藤原先生はとても厳しい方だと聞いておりましたので心配でした。

私の場合は、生活訓練は 3 ヶ月で、その後職業訓練に入りました。

藤原先生に教えていただいたことで、今も私の中に残っているのは、自分のしたこと、使ったものに対して「振り返る」ということです。

例えば、自分の使ったものを使う前に手で触れ、そして使い終わった後も触れてみて、初めと同じように戻しておくようにする。

これは生活をしていく上で、本当に私の中に残っていることの 1 つです。

また、茶道の時の事なのですがお茶碗にお湯を注ぐ時、自分では全く気づいていなかったのですが、そっと、私の手を持ってお茶碗の下を触れさせてくださいました。その時お茶碗の下に敷いた袱紗がびしょびしょになっていました。

大きな声を出すでなく、本当にお優しいご指導だと思いました。

厳しさの中にも、さりげない優しさを感じました。

本当にいろいろなことをご指導していただきましたことを感謝いたしております。ありがとうございました。

謹んで心からお悔やみ申し上げます。

## 「藤原先生に感謝」

大阪市 YT 女性

「藤原先生ってどんな人？」と聞かれると「厳しくて優しい人」と答えています。

日本ライトハウスで、日常生活訓練があり、初めて先生と出会って半世紀以上になるでしょうか？「見えなくてできないのではなくて、しないからできない」と言われたことが見えなくなってあきらめていた私には、ぐさりとささり、お茶をこぼさないようにや掃除で物を壊さないように周りに不快な思いをさせないようにすることなど、その他多くのことを学び、今までと方法を変えれば、それなりにできることを先生は、私や多くの訓練生に教えられました。

先生の訓練はいくら書いても書ききれません。

訓練所を出てから次に出会えたのは、盲老人ホームに入り、新阜さんにも出会ってからです。新阜さんと先生が連絡を取り合って偶然に先生と連絡が取れるようになりました。

そのうちに先生が何度か訪ねてきてくださるようになり、先生のお住まいになられていた奈良にも訪ねていくようになりました。

先生は、毎朝バスに乗り、新聞を買って喫茶店で読まれたり、近畿日本ツーリストで、チラシを見ながらコーヒーを飲まれたりとゆっくりと毎日を楽しんでおられました。

奈良県庁の屋上から見る景色が好きで、大仏様の参道を他の見学者の後ろについて説明を聞くとよく分かったり、外国語の説明も聞けるのと笑って言われる先生はかわいくておちゃめな一面が見られました。

奈良へお邪魔するようになった時に、「これ持ってて」手渡された「IKOCA カード」が、今も私の手元にあります。これを使うたびに先生を思い出すのでしょう。これからも藤原先生の掲げてくださる「ランプの明り」を見失わないように歩きます。

ある時、「頼ることも、みんなに教えるとよかったかしら」と聞かれたことがありました。私は、「厳しさがあったから今の私でいられます。」と答えると「そうだといいんだけど」と何か思うことがあったのかなと感じます。

この 3 年間余りは、先生の入退院やコロナのために先生に会えずにお別れをせねばならなくなりました。とても残念でなりません。藤原先生は、私の「サリバン先生」です。

これからも先生がいてくださった思いで、私の心のお友達でいてください。感謝とともにありがとうございました。

## 藤原先生との思いで

匿名 兵庫県 75 才 女性

日本ライトハウスの服装は、いつも白と黒でした、私服も白と黒が多かったと覚えています、好きと嫌いも、はっきりされていました。「私は、そこのところが一番好きでした。」

私と先生との出会いは、ライトハウスでのオリエンテーションでした、指導員が藤原先生でした、最初は説明があり、言われた場所に一人で行く事、目的の所に無事に行けるかを後ろから見て判定されるのです、私は、目的地には行けませんでした。歩いてるときも、終了したときも泣いていました。

先生に言われました「泣いててどうするの、今から、訓練を受けて、出来なかった事を出来るように勉強していくんでしょう、泣いててどうするの・・・出来ないことが減り、出来ることがふえていく、楽しいことがおおくなるの」思い直してがんばりました。「自分は見えなくてもまわりの人はみています、みだしなみ、ふるまいはきれいにしておきなさい。」といつもいわれていました。この言葉を大切に心にとめていきたいとおもっています。

追伸。三人で文楽の狂言を見に行きました、帰りにお茶した時に「ご主人と人形浄瑠璃、歌舞伎、など、日本の古典芸能、文楽いっぱい見に行ったと思い出を話されていた声のはずんでいたことは今も耳によみがえります。

## 藤原先生に教わったこと

匿名　兵庫県 73 才　ボランティア

奈良での日帰り旅行で私たちが気付かなかった食事やトイレの声掛けや見守りでとても印象的でした。

利用者の方が、日本ライトハウスの訓練指導を受けた卒業生で、その人の人生で一番というくらいの中途失明をした時期を一緒に見守って寄り添われたのだからとてもたいへんな人だと敬意を覚えました。

寄り添っていることや見守っていることがとても自然に見えたのです。何名かの訓練を受けた方がいましたが、なんとも懐かしそうで、うれしそうで、私もそんな存在になれればと思いました。

食は駅前でのモーニングや昼夜兼用の食事は外食で大阪や出先で済ませるようでした。

最初のころは、奈良公園を散策しました。足が悪くなってきていて、最後の時は近鉄天理駅まで補助車を押しながらも駅まで見送ってくれました。

あまり訓練生時代のことは話しませんでしたが、神戸にライトハウスのような拠点整備をしたいと構想をお話しすると、当時の岩橋明子理事長にも平成元年から数度お話しする機会を仲介していただきました。あなたの経験や苦しかったことが誰かの役に立っていけたらうれしいでしょうと励まされたことを思い出します。

心よりありがとうございました。

## 藤原先生の思いで

YT　神戸市　男性

ライトハウスでは、食事の時は姿勢よく。洗濯物は目印に。茶華道部では礼儀作法を学びました。私の職場の盲老人ホームへの職員研修に講師依頼をしたところ、「私も勉強になるのだから」と言われたけれど、私への厳しく優し気な視線も感じながら話を聞かせてもらいました。

食事の姿や歩き方や居室の整理などに関心、職員のための「視覚障害者への見守り・声かけ」と生活の中での配慮事項と手助け」「精神的なサポートの基本」などをまなびました。特にアイマスクでの食事やお茶、茶華道などは勉強になりました。奈良への千山荘の日帰り旅行での現地での同行と案内。3回（主に高木さん）奈良町や奈良公園、大仏殿や春日大社、鹿との戯れや奈良ホテルなど。奈良でのボランティアたちとの交流も面白かったですね。

藤原先生のお住いの有料老人ホームには3度行きました。家族や知り合いの宿泊できるゲストルームがあり、北陸や近畿圏からも昔の訓練生が何名かが泊まりに来ていたみたいです。私は3度泊りに行って、ぼちぼち話をしました。近鉄奈良駅で待ち合わせをして駅前の先生なじみの喫茶店で話をしました。先生は施設ではほとんど食事をせずに朝

＊コメント

卒業生のみなさんのお話の中で語られているエピソードが医学モデル一辺倒のような誤解を受けると思いますので、補足しておきます。

確かに、時代の状況から訓練をすることで障害を克服するような印象を受ける内容になってはいますが、藤原さんの思いは決してそうではなく、時代背景として ICF の考え方が一般的でなかったことと。また人生半ばにて視覚障害者となった方々への生きることへの希望を持てるような働きかけをしてきた結果としてご理解ください。（荒川）

# しぎのぼっチャ&モルック大会

**～ぼっチャの部～**

川内田　和昭

今年も 5/5（金）に、しぎのボッちゃ&モルック大会を開催しました。今回のボッちゃ大会の参加チームは、20チームと昨年に引き続き多くの方にご参加いただき嬉しい限りでした。

少し風はあったものの晴天に恵まれ、じっとしていてもむし暑く、それぞれのチームが日陰を求めバラバラで待機するほどだったので、試合前の集合時間に間に合わないケースが続出しました。

私は第一コートの審判をしており試合中の全体の様子は見ていませんが、皆様が楽しんでいる雰囲気は感じており、その雰囲気が安心感となり審判に専念することが出来たのかもしれません。

今回もモルック大会と同時開催でしたが、昨年の反省を活かし4コートを確保することができ、皆様のご協力もあり余裕を待って、スムーズに予選リーグを進めることができ、ほぼ予定通りに進行することが出来ました。

大会の結果は、ワークショップ 99 チームが優勝されました。聞けば、ボッチャはあまりやった事が無く、この大会に備えて練習して望んでくれたとの事でした。投球の時は、不安な表情を見せることもありましたが、それでも諦めず試合を続けていました。そして最後の 1 投で大逆転勝利を収めることが出来、その瞬間は大盛り上がりでした。惜しくも 2 位になったのは、そうそうの杜の座座 A チームでした。練習の成果がとても現れていて、私個人としての感想で失礼ですが「またあなた方ですか(^_^;)…」と呆れてしまいました。というのも前回も優勝争いまで勝ち残るほど本当にチームの皆さんお上手で、審判をしていても笑ってしまうほどでした。前回もそうでしたが、今回も子ども達の活躍が目まぐるしく、子どもの成長や力にはいつもながら驚かされます。

最後になりますが、次回の開催も予定しています。年齢や立場関係なく、地域住民同士で楽しめる時間を過ごせたらと思いますので、ぜひ皆様のご参加をお待ちしています。そして今回も場所を提供してくださった城東幼稚園様には本当に感謝致します。ありがとございました。

## ～モルックの部～

大竹　寛輝

2023 年 5 月 5 日のゴールデンウィークの中、毎年の恒例行事となった鴫野ぼっチャ・モルック大会が城東幼稚園で開催されました。

併せて隣接する南鴫野商店街においても、フリーマーケットや飲食物の販売など出展し、お祭りのような盛大な雰囲気でした。

初めに今年のモルックは参加希望も多く、コートの都合上、当日にチームの調整をさせていただきました。参加していただいた方にはご不便をかけてしまい申し訳ありませんでした。

モルック?と疑問に思う方もいらっしゃると思いますので説明させていただきます。元々はフィンランドで 100 年以上続く競技が基になっています。それを誰でも気軽に出来るように改良されたスポーツです。

ルールを簡単に説明しますと、1～12 まで書いてある木の棒を投てきで倒します。倒れた点数が 50 点ちょうどになったチームの勝ちになります。

簡単じゃん!と思われるかもしれませんが、ただ倒すだけではなく、ちょうど 50 点になるように計算したり、相手に倒させないように標的を当ててずらしたりなど、意外と頭も使う頭脳ゲームだったりもします。

かなり盛り上がりますので、ご興味のある方は来年の参加をお待ちしております(^^♪

さて、モルック大会の様子を書かせてもらいます。今回もそうそうの杜の事業所だけでなく、地域の方や他法人の方にも参加していただきました。

16 チームを 3 コートに分けて予選リーグ・決勝トーナメントで白熱した戦いとなりました。5 月にもかかわらず、炎天下の中でしたが皆さんの暑さを吹き飛ばすくらいの真剣な戦いに驚かされました。

見事、熱戦を制したのは「ビッカム」でした。優勝おめでとうございます。豪華景品は何だったんでしょうかねー(*^▽^*)??

コロナでの制限も緩和された中、改めてこういったイベントの大切さを感じられました。

最後にご協力いただいた城東区役所、城東地域活動協議会の皆さま、そして会場を介していただいた城東幼稚園の皆さまにこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

## フリーマーケットを終えて

駒澤　美羽

5 月のゴールデンウイーク3, 4, 5日に鳴野商店街フリーマーケットを開催いたしました。募集した最初のほうはまったく1件ほどしかなく不安でしたが、後半のほうでたくさんの応募をいただき予想よりはるかに多く、知人の人を誘ったりなどもしてくださり全体で 20 件の出店となりました。

一般の方は、主に古着や古本、ハンドメイドなどの出店が多かったです。展示の仕方もそれぞれ工夫しており、わざわざラックを持ってきて服を飾ったり、ハンドメイドの商品は髪飾りなどのアクセサリーが多く展示されていました。中にはマッサージをしたいとのことでブルーシートを引きそこで施術をうけるといった面白いお店もありました。私も少しツボなどを押してもらいましたが、ふっと体が軽くなる感覚がありました。意見としては、毎月やってほしい、定期的にしてほしい、ほかのフリーマーケットの参加費より断然安くうれしかった、売り上げもそこそこでました、などたくさん声掛けをしていただきました。また日によって出店数が違い、場所をもっと広く使えてたのに、5 日は短かった、などの意見もあり、個人的にはもっと場所の提示を明確でわかりやすいようにしないといけないのと、事前に説明ができるような方法が必要だったと感じています。

事業所では屋台っぽい、的あてやコイン落としをPrife がしており、当たったら鐘を鳴らしたりと子供たちに人気でした。座座は冷やし焼き芋をなんと陶芸の窯で焼いて作っていました。回数を重ねるごとにおいしい焼き芋ができたようで後半はとてもとろとろであまい焼き芋になっていました。そこにアイスなどのトッピング、試食をしたりなどしていました。つむぎ館では古本や手作りのお手玉などを販売していました。石橋さんが率先して店番していました。つむぎ館のブース周辺が少し寂しくもうすこし店の配置を考えないといけなかったなと感じています。創奏とげんげんでユーフォーキャッチャーの景品であてたぬいぐるみやフィギュア、さをり織りなども販売していました。ミャンマーの人たちがたくさんぬいぐるみを買い占めていたようです。Shokudoではフランクフルトやアイスクリーム、から揚げ、おにぎりを販売。アイスクリームは完売しました！

販売と一緒になってハンドメイドなどを利用者さんたちが頑張って店番をしたり売り込みをしたり、時間が無くなってきたらタイムセールをするなどそれぞれの工夫が見れてとても賑やかでよかったと感じました。来年 1 日だけにして集客をもっと増やせるよう、ぼっちゃ、モルック大会などのイベントを同時に開催するようにできたらと考えています。来年も頑張りましょう！

# 広報誌ポスティングについて

板見 善子

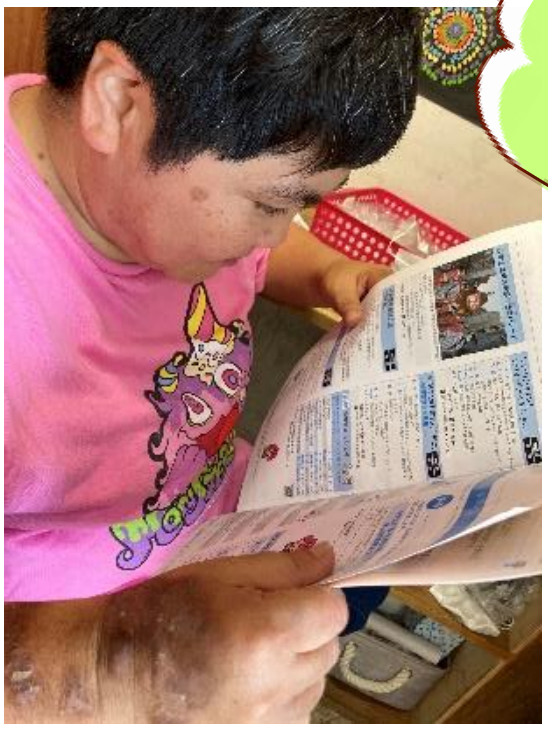
毎月、城東区にお住いの方には「ふれあいJOTO」という広報誌が届いていると思います。その配布を城東地域活動協議会が受託し、実際の広報誌配布をそうそうの杜が行なっています。鴫野東・東中浜・天王田の決まった町会を事業所ごとで地域を分担しています。広報誌が届いていない、と待っていらっしゃる方には申し訳ないですが、毎月1日～3日（4月、1月は5日まで）が配布期間となっています。期間内には、お手元に届くように配布しますので、お待ち願います

この広報誌ポスティングの特色として、各町会の中で高齢・独居の方への安否確認を含めた「声かけ」ということを行なっています。現在 33 件が対象です。

直接広報誌を手渡し、挨拶やちょっとした世間話をしています。何度か会うと「いつもありがとう」「頑張ってな」と声をかけてくださり、配っている側が励まされています。

家の前で出会う方にも直接手渡しをしています。はじめは「緊張するから」と、挨拶すら隠れていた利用者も、毎月同じ所に行っていると、今では「僕わたしてくるわ」と、逞しくなっています。他にも、ゴミ出しに困っていた人を見つけ声をかけ運ぶのを手伝ったり、お店の方に広報誌を渡してもなかなか出ず雑談をしていたり、自然と溶け込んでいる姿もあります。こうやって人や地域と繋がっていくんだなと実感しています。

「地域に大事な情報を届けてるんやから！」と、ある利用者から。この意気込みで、月初めに広報誌をお届けしていきます(^^)



事業所に届いた広報誌もチェックしています(^^)

# 城東幼稚園　武田園長インタビュー

　地域の方へのインタビューですが今回は、城東幼稚園の武田園長にいろいろと質問をさせていただきました。急なお願いにも快くお答えいただきました。お忙しい中ご協力いただきありがとうございました。

山川：城東幼稚園に来られて何年目になりますか？
武田園長：4 年目になります。最初来た時にちょうどコロナが流行した時期とかぶっていたのではじめの方は休園になってました。園長としての仕事は城東幼稚園が初めてでしたが周りの先輩方が助けてくださり改めて人とのつながりの大切さを感じましたね。
山川：鴫野という地域については来られる前はどのようなイメージでしたか？
武田園長：実は結婚当初鴫野に 1 年半ほど住んでたんです。その頃に比べたらおおさか東線が通ったり、改札が新しくできていたり変わっている部分もありましたけど、親しみのある所に来たなぁと感じました。商店街の方がとても気さくに接してくださって、世間話をしたり園児が通った時も挨拶とかしてくださって地域に幼稚園があることを受け入れてくださっているのかなと思ってとても感謝しています。
山川：子供達にはどのように成長してほしいですか？
武田園長：私はいつも氷山に例えて説明しているのですが、見えている部分は認知能力で算数できるとか縄跳びできるとかそういった能力で、見えない部分が非認知能力で教育の土台となる根っこの部分であり、幼児教育はその非認知能力を育む場所だと考えています。多様な経験をして自分で取捨選択できる力をつけっていってほしいです。何かやってみてうまくいかないことがあっても別のやりかたを試してみてほしいですし、挫折もしてよくて、そういう経験をした方が私は将来たくましく育つと思っています。最近では人の仕事は AI にとられるとか言われていますけど、人にしかできないことってやっぱりあると思っています。そのためにも社会性とか人の気持ちを考えられるような人になってほしいですね。
山川：休みの日は何をされていますか？
武田園長：休日はチワワを飼っているので散歩したり、ドッグフェスタのようなところに行って楽しんでいます。
山川：最後になりますがそうそうの杜についてどうお考えですか？
武田園長：地域に根差しながら、いろいろな人の立場に立って事業を行われていると思っています。一緒の地域なので何かあればお力添えしていただいたり、協力させてもらえたらと考えております。色々と交流もしていきたいですね。具体的にはそうそうの杜の利用者さんが幼稚園を訪問してもらったりして決まり切った関り方ではなく自然な形での交流ができればいいと思っています。そういえば、幼稚園の前を通るときにたくさんの利用者さんが声をかけてくれるのですが、「私、今日元気です！」って声をかけてくれる女の子が印象に残っています。
山川：本日はいろいろお話をさせていただきありがとうございました。
武田園長：ありがとうございました。

# チャップリン館

關 宏之

“そうそうの杜”の職員研修では、今年もチャップリンの映画「独裁者」の解説をして、「人権・差別」について議論しました。

以下、私の好きなチャップリン・ストーリーのつまみ食いです。

チャップリン（Sir Charles Spencer Chaplin,1889～1977 年:88 歳）は、イギリスの貧しい舞台俳優の一家の生まれで、子供時代は救貧院で過ごすという惨めな生活を送ったそうです。やがて芸人として舞台に立ち、19 歳の時のアメリカ巡業中に映画界からスカウトされて、2008 年に山高帽に大きなドタ靴、ちょび髭にステッキというキャラクターを通じて映画デビューし世界的人気者になりました。映画俳優・脚本家・映画プロデューサー・作曲などをこなしたマルチプレーヤーで、1975 年にエリザベス女王からナイトに叙され「サー・チャールズ」となりました。

**1.映画「独裁者」**

「チャップリンとヒトラー」（大野裕之著）という本には、映画「独裁者」の撮影を巡って同年同月の 4 日違い生まれの二人の壮絶な戦いが書かれています。チャップリンはヒトラー徹底的に笑いものにしてファシズムを攻撃することを決意し、ヒトラーはさせまじと暗躍する。脚本の執筆に 2 年をかけ、イギリスがドイツに宣戦布告した 1939 年 9 月に撮影を開始し、1940 年に公開しました。アメリカ国内でも映画化に反対意見があったようですが、制作費は自分でまかない、断行しました。

1940 年といえば日本は「日・独・伊三国同盟」を締結し、フランス領インドシナ（ベトナム）に進駐し、やがて太平洋戦争へと進みます。当然、日本でこの映画は公開されることはなく、公開されたのは 1960 年（昭和 35）のことです。

この映画でチャップリンは、ユダヤ人の床屋チャーリーとヒトラーをパロディ化した独裁者ヒンケルとの二役を演じます。長時間のしっちゃかめっちゃかのドタバタ喜劇で存分にヒトラーをおちょくります。最後のシーンが圧巻です。ヒンケルに間違われた床屋チャーリーは、隣国に侵攻するために招集された軍隊を前に、「ユダヤ人も黒人も白人も人類は互いに助け合うべきである。人々よ失望してはならない。貪欲はやがて姿を消し，恐怖もやがて消え去り，独裁者は死に絶える。大衆は再び権力を取り戻し，自由は決して失われぬ！」と演説します。

1945（昭和 20）年に設立された国際連合は、二度と戦争をしないことを憲章とし、1948（昭和 23）年には国連第 3 回総会で「世界人権宣言」を採択し、「すべて人間は生まれながらにして自由であり，尊厳と権利において平等である。」（第 1 条）と宣言します。

わが国の憲法にも大きな影響を与えますが、悲しいかなしばしば反故にされ、それでも各国が寛容であることを求めて世界はまた新たな模索を始めます。

## 2. チャップリンと日本

57 歳で初来日したチャップリンの写真で、1932（昭 7）5 月 14 日のことでした。お気づきの方がおられると思いますが五・一五事件の前日です。事件当日は、海軍将校と陸軍士官候補生の一団が犬養首相を襲い、首相官邸では「話せばわかる」「問答無用」の惨劇が繰り広げられました。青年将校たちはことのついでにアメリカの重鎮であるチャップリンも殺害して日米開戦に持ち込むという目論見みもあったといいます。彼は、15 日の犬養毅首相との面会を「相撲を見に行きたい」と 5 月 17 日に延期して難を逃れたのだそうです。好奇心旺盛なチャップリンは、風情ある銭湯を見つけると立ち寄り、芝浦の料亭で美女に囲まれどんちゃん騒ぎ、相撲見学や茶道に魅せられ、最もはまったのが「歌舞伎」だったそうです。

浅田次郎の小説に「天切り松　闇がたり」があります。大正ロマン華やかなりし頃、帝都に名を馳せた「目細の安吉」なる義賊の一家は、天下のお宝だけを狙い、貧しい人々に救いの手をさしのべる義理と人情に命を賭けた粋でいなせな怪盗たちの胸のすく傑作悪漢小説の第5巻「ライムライト」は、チャップリンの暗殺計画を知った怪盗たちが、「この稀代の思想家・芸術家を殺させてなるものか」と奇想天外な仕掛けで青年将校たちを手玉に取り、チャプリンの暗殺計画を阻止したというウソ物語です。運良く惨事を免れたチャップリンは 5 月 18 日の犬養首相の葬儀に際して「友国の大宰相犬養毅閣下の永眠を謹んで哀悼す」と弔電を打ったそうです。

彼は、都合４回日本を訪れており、最後は 1961（昭 36）年 76 歳で家族と一緒でした。

彼と日本を結びつけたのは高野虎市(こうのとらいち)という日本人で、絶大な信頼を得て、彼のドライバー・秘書・護衛などを任されるようになった人物です。

## 3. 街の灯（City Lights）

写真は、1919 年にハリウッドでチャップリンがヘレン・ケラー女史から指文字を教わっているところです。

南北戦争（1861 年～1865 年）を終えたアメリカは混沌としていたようです。奴隷の廃止は後退機運にあり、世界各国から移民が押し寄せて安い労働力として工業化や産業化に貢献し、労働争議や人種暴動事件が頻発し、ネイティブ・アメリカンを蹴散らして鉄道網を広げて中西部の開拓を進めます。

「スワニー河」「金髪のジェニー」「オールド・ブラック・ジョー」などを作曲したフォスターもこの時代の悲惨さを描き、私が好きなテレビドラマ「大草原の小さな家」でも、アメリカ中西部で希望に満ちた開拓生活を送っていたインガルス一家がやがて時代の波に翻弄され、最後は、思いの詰まったミネソタ州のウォールナット・グローブを模して造られたロケまでダイナマイトで爆破するという壮絶な終わり方をします。

ヘレン・ケラーは、1880 年にアメリカ南部アラバマ州で典型的な南部白人家庭に生まれました。ケラー家には奴隷の乳母やその子供たちもいました。ヘレンの両親は、視力と聴力を失ったヘレンのために電話の発明者であるグラハム・ベルやアン・サリバンを家庭教師として迎えます。20 歳になったヘレンは、1900 年にラドクルフ・カレッジ（現ハーバード大学）に入学した彼女は順風満帆で、著書や講演で相応の収入を得ます。

しかし、彼女は、1909 年にアメリカ社会党に入党し、1916 年には世界労働産業組合に共感して男女同権論、婦人参政権や避妊具の使用を主張、人種差別反対論、過酷な若年労働や死刑制度や第1次世界大戦のアメリカ参戦に反対し、1917 年のロシア革命を擁護します。尊敬する人物を聞かれてエジソン、チャップリン、レーニンと答えたそうです。

一連の言動は、アメリカ政府が国内の共産党員や同調者に対して行っていたレッド・スケア(赤狩り)によってFBIの要調査人物とされ、収入も途絶え、家を売却することになります。窮地にあった彼女に手を差し伸べたのがハリウッドに撮影スタジオを設立したばかりのチャップリンでした。

映画「街の灯」は、1931 年 2 月に封切されました。登場人物はみすぼらしい、風体の上がらない男と目の不自由な盲目の花売りの娘です。花売りの娘が街角でバラを売っていました。落とした花を拾ってくれた男を金持ちの紳士だと思い込んでしまいます。娘とその祖母が家賃を滞納し立ち退きを迫られていることを知った男は、娘たちを助けるためにあれこれ手を尽くしてしてお金を工面しようとします。ドタバタの末に男は偶然にも 1,000 ドルを手にし、それを娘に手渡しして家賃と目の手術代だといって立ち去ります。しかし、男はその金の出所を疑われて収監されてしまいます。時は流れ、刑務所を出たみすぼらしい風体の男がとぼとぼと歩いています。男は、見るようになった娘と母親がフラワーショップを経営しているのを偶然に見かけます。男は声をかけることもできずただただ娘の姿にみとれてしまう。子供たちにからかわれているみすぼらしい身なりの男が彼だとは思いも寄らない娘は、可愛そうになって花とコインを恵もうとします。恥ずかしくなり、去ろうとする彼に、娘がバラの花一輪を男に渡し、男の手を握り無理矢理コインを押し込みました。

一瞬の沈黙・・・娘はあの手の温もりを思い出しました。

「あなたが?」(You?)・・・娘が男に聞き、男はこっくりとうなずきます。

「目が見えるように?」(You can see now?)・・・男が娘に聞きます。

「ええ、見えますわ」(Yes, I can see now.)・・・娘が応えます。

短い言葉と仕草、余韻の残るラストシーンです。

チャップリンは、1952 年(63 歳)に「ライムライト」の初演のためロンドンに向かいますが、この時アメリカから国外追放命令を受け「もしイエスが大統領であっても私はあそこには戻らない」と告げてスイスに移住します。「下を向いていたら虹を見つけことはできないよ。」「人生に必要なもの。それは勇気と想像力、そして少しのお金だ」「死と同じように避けられないものがある。それは生きることだ」といった言葉も残っています。

「どれがあなたの最高傑作ですか?」と聞かれれば、いつもネクスト・ワン(NEXT ONE!:次回作さ!)と答えたそうです。1972 年(83 歳)にアカデミー賞特別賞を受賞するために 20 年ぶりにアメリカに立ち、1877 年(88 歳)にスイスの自宅で亡くなりました。

# エッセイ『自分みがき』

和田　数子

昨日嬉しいことがあった。昨年のご依頼から一年が経つ。暑くなっているのにカーペットやこたつ布団が出ていて「ありゃぁ何とかならんのか」というのが居宅支援側のご意見。早速、和田に相談があった。

まずは観察、困っていることの聞き取り、横に並んで一緒に暮らしを見つめるところから始める。本人の希望でカーペットとこたつ布団は洗い、しまっておく。ついでに冬がけの布団を干し、カバーを洗う。その際、家電のタコ足配線コードの整理を行なう。みるみる部屋が広くなり、掃除がしやすくなって行く。掃除機をかけ、最後に必ず雑巾掛けをするのが私流。出てきた床は木目調のクッションフロア、気兼ねなく拭き取れる。賃貸なので床の素材は階下への配慮もある。それなのに、下の方から音の苦情が出て、クッション性のあるジョイントマットを部分的に敷いていた。汚れたマットは踏むたびに動いてしまうし、つまずいて転びかねない。ダニやゴキブリの巣窟になる前に綺麗に外してしまいたい。ここで強行しないのが私流。せっかく買って敷いているマットは自分で洗って敷き直してもらう。階下への音の問題はＭさんが原因では無い。

寒くなりカーペットが欲しくなってきた頃、チェアーマット（90cm×120cm）を勧めた。こたつ布団をかける頃、吸着性のあるタイルマット（30cm×30cm）を冷たい床に体を置く場所にと一枚 150 円で買ってもらい、敷きたいところから置いていく方式。いつの間にか洗っていたジョイントマットは廃棄され、安全で洗いやすいタイルマットに置き換わっていった。ジョイントマットも初めは私が手洗いしていたが、今ではご自分で洗って乾かし敷いておられる。

吸着性のあるジョイントマットがうまく貼れないらしく、隔週の土曜日、私が訪ねるのを心待ちにしてくれる。昨日は玄関を入ると、素早く自室へ向かい Ｍさんの雑巾掛けが始まった。私も自分の雑巾で玄関から拭き上げていく。暮らし方を教えていただくことはとても勉強になる。ご本人も部屋が綺麗になることを自分で体感し、その方法がなんとなく伝わっていく。

太陽が眩しい季節になってきた。恒星は自ら光を放つが地球や月のように照らされてその恩恵を受ける星がある。私は光を放つ星ではなく、照らされて変わって行く自分が好きだ。

# 「そうそうの杜ビン」のこと

2005 年 9 月 9 日生
2023 年 7 月 4 日（享年 17 歳と 10 カ月）

ほぼ 17 年間の生活を、そうそうの杜本部にて過ごし、7 月 4 日未明に亡くなりました。

人間でいえば 90 歳弱になるとか犬の人生としては大往生だったと思います。

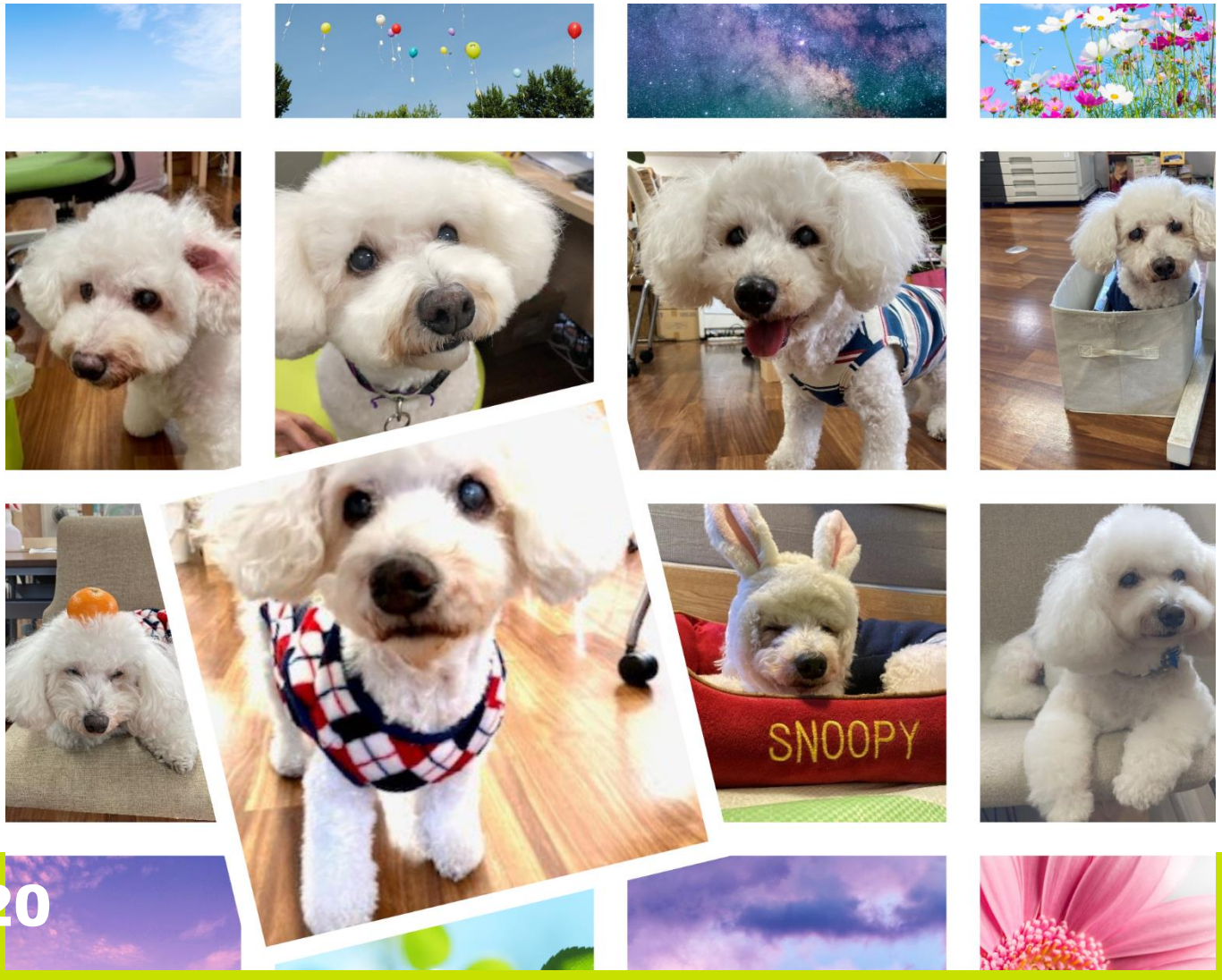
そうそうの杜にきていただいた方はご存じだと思いますが、法人にとっても大事な存在でした。

思い起こせば、1 歳にも満たないやんちゃな犬で本当にわがままな犬でした。しかしスタッフや利用者にとってはとても癒しになる存在で、その年齢や時期に応じて利用者の散歩係も沢山やっていただきました。

そもそもの出会いは、ある家庭で他の犬と飼っているが、小型犬をいじめて仕方がないということでそうそうの事務所でもらってもらえないかというのが始まりでした。当初は、お手・お座り・待て等を事務所のスタッフを中心に必死で教え込もうとしましたが、おやつのみに気持ちがいって、全く覚えることができませんでした。そんなできの悪い？ビンでも、ビションフリーゼ独特の毛並みと愛くるしさで事務所のアイドルとして 17 年間過ごしてくれました。

利用者のみなさんも散歩係をやっていただきましたし、週末はショートステイでスタッフの太居さんや座の宮田さんにもお世話になりました。またアトピーのあるビンは食事も苦労しましたが、おやつをこっそりあげたり、事務所のスタッフは通院やトイレの世話をしてくれました。

改めて、利用者やスタッフにとっても癒しの存在であった「そうそうの杜ビン」に冥福とまた生まれ変わってもビンと出会えることを願ってお送りします。



# ビンによせて

ビンとの出会いは印象的で、ある日の朝本部の扉を開けると見慣れないケージと飛び跳ねる謎の白い犬がおり、驚いた事を今でも鮮明に覚えています。

元気いっぱいで度々脱走をしては、近所の人に「びんちゃん逃げてるよ！」と連絡が入り迎えに行ったり、時にはお中元のハムが食べたくて人の目を盗んで机に飛び乗りハムを食べたのはいいものの、その後アレルギーが出て苦しんだり、おやつをもらおうと必死にお手をして頑張ったりと、つい何もなくても構いたくなる存在でした。

ここ1年は寝ている時間が多く、「年をとったな」という印象の半面、毎朝おやつを口元にもっていくとバクバクと食欲旺盛でまだまだ大丈夫という印象でした。

そんなビンが亡くなって寂しい気持ちとビンは、そうそうの杜の利用者やスタッフと共に約18年間歩み、いつの間にかなくてはならない存在になっていたんだなと改めて感じました。

奥野

ビンちゃんかわいそう。
おらんなったら寂しい。
ビンちゃんかわいかった。
よう私の部屋に
泊まりに来て嬉しかったわ。
いつも、いつも
散歩に行って楽しかったわ。
ようご飯つくったわ。オムツも替えたったわ。
ビンちゃん死んで悲しいわ。

宮田　裕紀子

ビンが最初に来た時に、ほんまに小さくて長生きするんか思ってた。かわいがられて、少しずつ大きくなってきて、ビンがみんなのことや、荒川さんの言葉を覚えはじめた。「まて」「おすわり」とかしてた。太居さんのところにも行くようになって、野村さんや中山さんとも出会って色々と覚えて成長していった。

最初の頃、ビンが田島さんのズボンの裾が破れてるところが大好きで、引っ張って怒られてた。怒られてもしばらくしたら、またズボンの裾に行くビンが面白くて、私はずっと見てた。

ビンは、みんなと長い間一緒にいた。ちょっと寂しいかなゆう感じはある。

ビンちゃん、さようなら。またあの世で会いましょう。

池田　ひとみ

大好きな「ビン」へ

ビンちゃんがこの世を去ったこと自体、今でも信じられないほど辛い気持ちでいっぱいです。君は私たちの最愛の仲間であり、そうそうの杜の一員でした。君がみんなに与えてくれた喜びや幸せは計り知れません。

私は子どもの頃のトラウマがあり、そうそうの杜入所時はびんちゃんに触る事さえできませんでした。5年前、「ビンの朝の散歩をしてくれませんか？」と声をかけられ、こわごわ始めた散歩だけど、一緒に過ごした時間は宝物であり、いつまでも忘れることが出来ません。

ビンちゃんがいないことに気づくたび心が痛みますが、君が幸せで安らかな最後の日々を過ごせたことを知っています。みんなの愛情に包まれながら、みんなのそばで旅立ちました。君にとっては苦しみの終わりであり、私たちにとっては思い出の始まりです。

ビンちゃんありがとう！君の存在は、みんなの人生を豊かにし、愛と喜びで満たしてくれました。君がそばにいたことで勇気を持ち、前に進む力を教えられました。君がいなくなったことは悲しいけれど、私たちに教えてくれたことは忘れません。君との思い出は心の中でずっと生き続けます。安らかに眠ってください。

川内田　和昭

ビンはそうそうの杜に来て一番に教えられたことは、利用者に吠えてはダメでした。

週末太居家に来たときはストレス発散でマドの外に向かって吠えまくりでした。

太居

ビンちゃん今までありがとう。
これからもみんなを見守ってね。

栗林　幸世

鴫野エリア活性化プロジェクト

# 大人夏休そうめん

参加費
大人300円
子供100円

日時 8/15(火)
12:00～15:30

受付 11:00～

会場 みなみ鴫野商店街

事前申し込み
杜のShokuodo・杜のこうさてん
8/7 締切 定員200名

事前申込用QRコード

主催・社会福祉法人そうそうの杜
みなみ鴫野商店会

TEL 06-6965-7171

# 寄付にご協力いただきありがとうございます

社会福祉法人そうそうの杜では、当法人の理念や事業、目的に賛同される方、事業活動へのご支援をいただける方に寄付をお願いしています。書面にて大変失礼かとは存じますがお力添えくださいますようお願い申し上げます。ご支援いただいた寄付金につきましては、大切に使わせていただきます。また、寄付をしていただいた皆様には機関紙「想創奏」をお送りします。

寄付の方法は、以下の郵便振替口座にて御振込いただきますようにお願いします。今後ともご支援、ご協力いただきますように、法人として努力して参りますのでよろしくお願いいたします。

ゆうちょ銀行　口座番号：00940−5−185986
振込先（加入名）：そうそうの杜

一般寄付（2023年3月17日～2023年7月3日にご支援頂いた方）

池田 勉、伊藤 光子、今井 力、岸本 博、国本 光子、倉川 俊介、古賀 妙子、斉藤 弥生、阪口 昌通、
進藤 久子、谷本 利雄、中島 伸治、中島 敏之、沼守 紀之、原田 てるの、兵藤 多美子、福田 幸惠、
正木 恭子、三宅 克英、村津 和雄、森 貴宏、横川 よし子、吉川 愛子、綿谷 三枝子、渡辺 清美、
今福地域活動協議会、鍬の会、株式会社ファーストステップ、
さかえ会 代表理事 岸本大三郎、松野税理士公認会計士事務所 松野剛史
丸栄青果 外川鉄治、村田デンタルラボラトリー

（敬称略）

その他、地域の方々にアルミ缶・牛乳パック・おもちゃ、古本、中古家具等、様々な物品のご寄付を頂いておりますことを、心より感謝申しあげます。いつも本当にありがとうございます!!

## 社会福祉法人そうそうの杜

■法人本部

城東区鴫野東3-2-26 Tel/06-6965-7171 Fax/06-6167-2622

■杜のShokudo　Lianの杜 杜のざっかやさん（就労継続支援B型）

Tel/06-6955-8080 Fax/06-6167-2622

■心（自立訓練）

■地域生活支援センターあ･うん（相談支援事業）

■北部地域センター（大阪市障がい者就業･生活支援センター）

城東区鴫野東3-2-28

Tel/06-6969-8123　Fax/06-6167-2622

Tel/06-6955-9921　Fax/06-6167-2622

■とことこっと（居宅介護･重度訪問介護･同行援護･移動支援･訪問介護）

城東区中央1-6-28 Tel/06-6167-7530 Fax/06-6955-8826

■びんの郷

城東区鴫野東2-26-18

■1F 庵（生活介護）　Tel/06-6958-4745

■2F 伝（児童発達支援･放課後等デイサービス）　Tel/06-6958-4746

■げんげん（生活介護）

城東区鴫野東3-18-5 Tel/06-6180-9670

■創奏（生活介護）

城東区鴫野東3-3-1 Tel/06-6923-8929

■Kawasemi（就労継続支援A型）

城東区中央1-6-29 Tel/06-6935-1111 Fax/06-6935-1911

■座座（就労継続支援B型）

城東区鴫野東3-2-12 Tel/06-4258-6013

■つむぎ館（就労継続支援B型）

城東区鴫野東3-2-26 Tel/06-6180-6820

■Prife（就労移行支援･就労継続支援B型･就労定着支援）

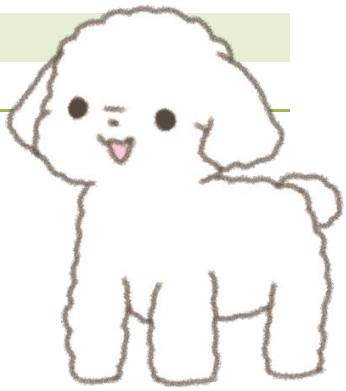
城東区東中浜2-2-19 Tel/06-6923-8959

■いま福の家（生活介護/共生型通所介護/共生型介護予防型通所サービス）

城東区今福南4-15-33 Tel/06-6180-7399

■添（短期入所）

城東区鴫野東3-2-5 Tel/06-6167-5395

■杜のこうさてん（大阪市つどいの広場事業）

城東区鴫野東3-3-3　Tel･Fax/ 06-6961-5505